

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 29 日現在

機関番号：14301
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22710246
 研究課題名（和文） アフリカにおける創造的実践知としての技術文化複合とその内発的
 発展
 研究課題名（英文） Techno-cultural complex as creative practice and a form of
 spontaneous development in Africa
 研究代表者 金子 守恵 (KANEKO MORIE)
 京都大学・大学院人間・環境学研究科・助教
 研究者番号：10402752

研究成果の概要（和文）：

アフリカの人々による「ものづくり・つかう方法（＝技術）」が製作者と利用者のもとの身体を介したコミュニケーションにより創造され続けていることをライフヒストリー法により描いた。個々の製作者が身体を介して試行錯誤し環境と独自の関わり方を見いだしていること、その視点を技術文化複合に加える重要性を提示した。個々人の技術的な差異に積極的な価値を付与していく事が内発的発展を展開する可能性につながると提起した。

研究成果の概要（英文）：

By analyzing life histories, this study found that people in Africa have continued to create new techniques for producing and using craftworks through communication between users and craft workers that is contextualized in their body movements, in a specific situation. The study also discovered the importance of exchanging differences in techniques, which are based on individual trial and error in the framework of the techno-cultural complex, as a source of innovation among craft workers. If these changes have attached socio-economic value both inside and outside the area, it could stimulate further spontaneous development.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
22 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
23 年度	800,000	240,000	1,040,000
24 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：ものづくり、技術文化複合、アフリカ、創造性、内発的、発展、創造的実践知

1. 研究開始当初の背景

これまでエチオピアの女性職人がおこなう土器づくりを社会に埋め込まれた文化的行為ととらえてその特質をあきらかにし、それを手がかりにして人びとの生活世界を理解

しようとしてきた。そのかわり、現代アフリカの小さな村においても、工業製品が人びとの生活に不可欠になるにつれ、在来の知識や技法が急速な勢いで衰退していることを見聞してきた。その一方で人びとが、地域に

ある素材をもちい、これまでつちかってきた知識や技法をもとに、外部から入ってきたものや情報をうまくとりこみながら新しい技術を創りだし利用している場面にも頻繁に遭遇してきた。この2つの現象は決して相反するものではない。だが、これらの一見相矛盾するようにみえる現象を、現代アフリカに暮らす人びとの世界観によりそって理解しようとする試みは十分に進展してこなかった。開発援助の現場において、伝統的な技術を基礎にしたプロジェクト実施の重要性が指摘されてはいるものの、近代的な技術を外部からもちこんでプロジェクトをすすめるという姿勢は根強く続いている。この申請課題は、上記のような問題意識のもと着想するに至った。

2. 研究の目的

この研究は、現代アフリカにいきる人びとが実践している「ものをつくり・つかう方法(=技術)」を優れて創造的な営みととらえ、それを「技術文化複合(ものをつくり、つかうための自然環境や社会的な環境との関わりとそれに関わる信念や価値観まで含めた複合体)」として検討したうえで、当該社会における「技術文化複合」の全体像と特質をあきらかにし、現代アフリカ社会の多様な発展のあり方と同時にその内発的な発展の可能性を探求することを目指した。

3. 研究の方法

この研究では、技術は社会に埋め込まれた文化的な行為であるという見方にたち、「技術文化複合」という概念を設定して、以下の3点について研究をすすめた。

(1) インタビュー法：創造的な実践知としてのものづくりの実態把握をめざし、過去10年の間にそのつくり方を記録したことのある土器職人を対象に、再度彼女たちの製作の様子を記録した。これに加えて、技術の動態や創造性に関して、ライフヒストリーに関するインタビュー法をもちいて通時的な検討をおこなった。

(2) 参与観察および国際的な学術交流：「技術文化複合」の分析と概念の精緻化をめざし、フィールドにおいて、工芸品の製作者とその利用者を対象に、ものをつくり・つかうこと、そのものへの評価の仕方について参与観察を通して記録した。さらにそれらの連続性に留意して「技術文化複合」の特質を検討した。この分野において長い研究蓄積があるフランス高等社会科学研究院において研究会へ参加発表することを介して「技術文化複合」概念の精緻化をすすめた。

(3) KJ法・プロセスドキュメンテーション法をもちいた実践的地域研究の視点にたったフィールドへの深い関与：調査者みずからエンセーテ繊維の開発に関わる技術の導入にたずさわりながら、その受容の過程について、あるグループのメンバー間の意見の共有やグループでの取り組みに関する諸処の決定過程について記録するKJ法やプロセスドキュメンテーション法をもちいた。それらをふまえたうえで、内発的発展の契機と展開について検討した。

4. 研究成果

3年間の研究を通じて、以下の3点の研究成果があった。

(1) アフリカの人々による「ものをつくり・つかう方法(=技術)」が製作者と利用者のもとと身体を介したコミュニケーションにより創造され続けていることをライフヒストリー法により描いた。

この成果は、技法の変化を人々の半生に重ねあわせるあらたな民族誌の可能性を提示した(図書①)。また、民族考古学的な視点にたつて、「もの」と行為との関係性に留意した技術的な変化を提示したものであり(雑誌論文③)、今後ものづくりにおける知や技法の実践とジェンダーという課題へと展開する可能性をもっている(雑誌論文①②④)。

(2) 個々の製作者が身体を介して試行錯誤し環境と独自の関わり方を見いだしていること、その視点を技術文化複合に加える重要性を提示した(学会発表③⑦、雑誌論文⑤)。

近年、国内の文化人類学の分野において注目されている物質文化研究に、身体技法の技術的側面について、身体と環境との関わりを実証的に提示した点でインパクトがあった。

また、この分野で中核的な研究をすすめているフランスにおいても、日本人研究者もまた類似した関心のもとに研究をすすめていることを示し、学術的な交流をすすめることができた点において一定の成果があった。

(3) 個々人の技術的な差異に積極的な価値を付与していく事が内発的発展を展開する可能性につながると提起した。プロセスドキュメンテーション法は、従来コミュニティの意思決定プロセスを把握する手法として位置づけられているが、この活動に参加したメンバーだけではなく、調査者も含めて

KJ 法をもちいて情報共有をおこなったことにより、調査者自らの関与もふくめて、活動に関わった人びとのあいだの情報の共有過程を描くことが可能になり、その過程で、基本的な技術や知識が共有されていると同時に、それらにくわえて、多様な技法や知識がうみだされていることを見いだした。

また、ものをつくり・つかうという両面をふくめた「技術文化複合」という概念を中核におくことにより、「もの」自体の均質性よりも、多様性がうみだされた経緯に留意し、それをその「もの」がうみだされるストーリーとして、作り手の側だけではなく、完成した「もの」とともにそれを使う相手にも伝えることが、その「もの」がうみだされた地域の文化社会的な背景も伝える事につながるという見解にもつながった。

このような見解は、近年開発実践の分野では、地域の産物を販売する場面で留意されはじめていることであるが、生産から販売までを一連の製作過程としてとらえたうえで、その過程を内発的発展の契機として位置づけたものはほとんどなく、その点において非常にユニークな成果を提示した(学会発表④⑦)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

- ① Morie Kaneko & Masayoshi SHIGETA (eds), Gender-based Knowledge and Techniques in Africa, African Study Monographs Supplementary Issue, 査読有, 46, 2013, 173.
http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/asm/suppl/asm_s46.html
- ② 金子守恵・重田眞義(編) アフリカにおける社会的な性差を基盤にした知識と技法、ZAIRAICHI、査読有、1、2013、52頁。
- ③ 金子守恵、ことばを介さない土器のやりとりとあらたな器種の創造:エチオピア西南部の定期市における土器の売買を手がかりにして、物質文化、査読有、93、2013、17-30。
- ④ Morie Kaneko, Transmigration among Aari Women Potters in Southwestern Ethiopia and the Accumulation of their Experience in Pottery-making Techniques, African Study Monographs Supplementary Issue, 査読有, 46, 2013, 81-96.

http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/asm/suppl/abstracts/pdf/ASM_s46/4.Kaneko.pdf

- ⑤ 金子守恵、交渉する手指:エチオピア西南部女性土器職人による身体を介した環境との関わり、文化人類学、査読有、77-1、2012、60-83。
- ⑥ Morie Kaneko, Open firing techniques as community-based technology: Ari pottery making in Southwestern Ethiopia, Nilo-Ethiopian Studies, 査読有, 2012, 17, 1-26。
- ⑦ 金子守恵、土器づくりを知っている、もの人類学、2011、133-156。
- ⑧ Morie Kaneko, Variations in pottery making in southwestern Ethiopia, *Aethiopistische Forschungen*, 査読有, 72, 2010, 187-199。

[学会発表] (計 7 件)

- ① Morie Kaneko, "I know how to make pots by myself": Special reference to local knowledge transmission in Southwestern Ethiopia, 18th International Conference of Ethiopian Studies, 2012 29th October-2nd November, Dire Dawa, Ethiopia.
- ② Morie Kaneko, Transmigration among Aari women potters in southwestern Ethiopia and the accumulation of their experience in pottery-making techniques, International Forum: Emerging Approaches to Understanding Gender-based Knowledge and Techniques in Africa, 24th February 2012, Kyoto University.
- ③ 金子守恵、「動きからスタイルへ:エチオピアの女性土器職人の指使いと土器づくり」日本文化人類学会第 45 回学術大会、2011.6.11、於法政大学。
- ④ 金子守恵、重田眞義、高野紘子、「エンセーテ繊維製品開発のためのあらたな技法の導入と受容の過程:エチオピア固有の作物エンセーテを活用した持続的農村開発(4)」日本ナイル・エチオピア学会第 20 回学術大会、2011.4.23、於長崎大学。
- ⑤ Morie Kaneko, Firing pots and avoiding explosions: Essay on the human/nature relationships in the open-firing practices of the Ari, southwestern Ethiopia, International workshop: Perspectives on human-nature relationships in Africa: Interrelations between epistemology and practice, 19th September 2010, Kyoto University.
- ⑥ Morie Kaneko, Pottery Making as Community-based technology: Japanese

perspectives in Africa. Technology and culture, Éléments d' anthropologie fondamentale Objets, techniques et cultures, 27th May, 2010, Centre Norbert Elias, Ehess, Marseille, France.

- ⑦ 金子守恵、重田眞義、伊藤義将、「エンセーテの品種多様性をめぐる実践的地域研究のこころみ」日本ナイル・エチオピア学会第 20 回学術大会、2010. 4. 18, 於明星大学.

[図書] (計 1 件)

- ① 金子守恵、昭和堂、土器づくりの民族誌、2011、287.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金子 守恵 (KANEKO MORIE)

京都大学・大学院人間・環境学研究科・助教

研究者番号：10402752